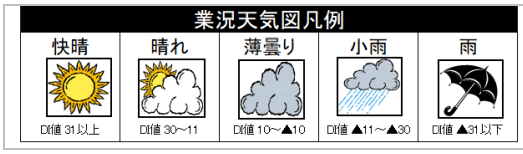
今期業況天気図

期間:2019年 10 月～12 月(売上・採算・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合の天気図は「小雨」。推移をみると、 2019 年 10 月～12 月期の総合業況DIは▲27 と、前期▲23 から4ポイントの悪化。全産業では2四半期前に全業種が「小雨」に悪化して以来、引き続き全業種の「小雨」が続いている。製造業、建設業、飲食業・サービス業は5～9ポイントと大幅な悪化となった。建設業のみ小幅ながら 2 ポイント改善した。

消費税増税後の買い控えの影響を受けた小売業・卸売業と、米中・日韓貿易摩擦の影響を受け前々期から景況の悪化が続く製造業が、前期の「小雨」から「雨」へと悪化した。

	全業種 総 合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 23	▲ 31	▲ 9	▲ 34	▲ 21
採算	▲ 29	▲ 33	▲ 13	▲ 39	▲ 31
仕入単価	▲ 48	▲ 48	▲ 53	▲ 56	▲ 42
販売単価	▲ 5	▲ 10	▲ 9	▲ 5	0
従業員	24	17	42	14	24
資金繰り	▲ 19	▲ 21	▲ 10	▲ 25	▲ 20
今期業況 (総合判断)	▲ 27	▲ 32	▲ 13	▲ 39	▲ 27
今期業況 天気図					



<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考)今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 2019.1月～ 3月期					
2四半期前 2019.4月～ 6月期					
1 四半期前 2019.7月～ 9月期					
今期 2019.10 月～ 12 月期					

次期見通し業況天気図

2019年10月～12月（売上・採算・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較）

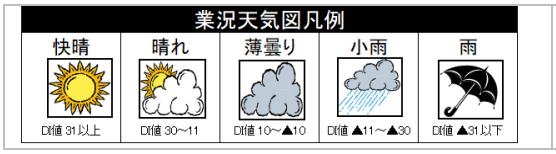
全産業の天気図は「小雨」。

産業別にみると、今期景況が悪化した製造業と小売業・卸売業は改善に向かい、製造業は「雨」から「小雨」へと回復することが見込まれる。建設業、飲食業・サービス業では景況に大きな変化はなく「小雨」が続く見通し。

今期と次期を産業別に比較すると、今期改善した建設業（今期・次期）はやや悪化。今期やや悪化した飲食・サービス業（今期・次期）は、次期は改善に向かうと期待される。過去4期に渡り悪化が続く製造業（今期・次期）は、貿易戦争も一段落しようやく景況が下げ止まる見込みだが、回復には至らない模様である。今期「雨」に落ち込んだ、小売業・卸売業（今期・次期）は、景況は好転するが依然として「雨」で厳しい状況が続くと予想される。

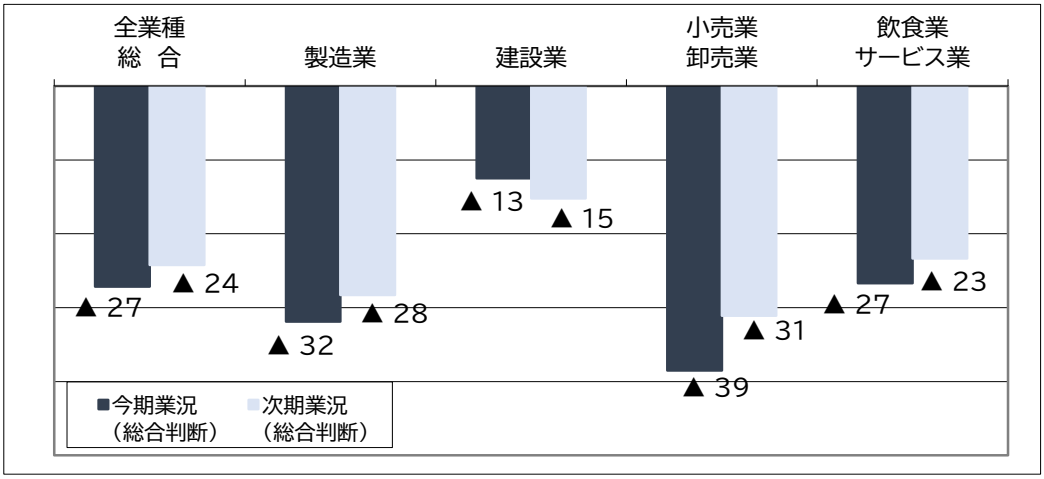
引き続き、建設業を除く全ての業界で 20 以上のマイナスが続き、厳しい状況である。

	全業種 総　合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 20	▲ 25	▲ 14	▲ 30	▲ 15
採算	▲ 23	▲ 25	▲ 16	▲ 29	▲ 22
仕入単価	▲ 34	▲ 33	▲ 39	▲ 42	▲ 31
販売単価	▲ 8	▲ 14	▲ 5	▲ 9	▲ 6
従業員	20	13	37	6	21
資金繰り	▲ 17	▲ 20	▲ 8	▲ 18	▲ 18
次期業況 （総合判断）	▲ 24	▲ 28	▲ 15	▲ 31	▲ 23
次期業況 天気図					



<<景気観測調査>>
前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。
「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値（DI値）を用いる。

参考） 今期と次期の業況DI



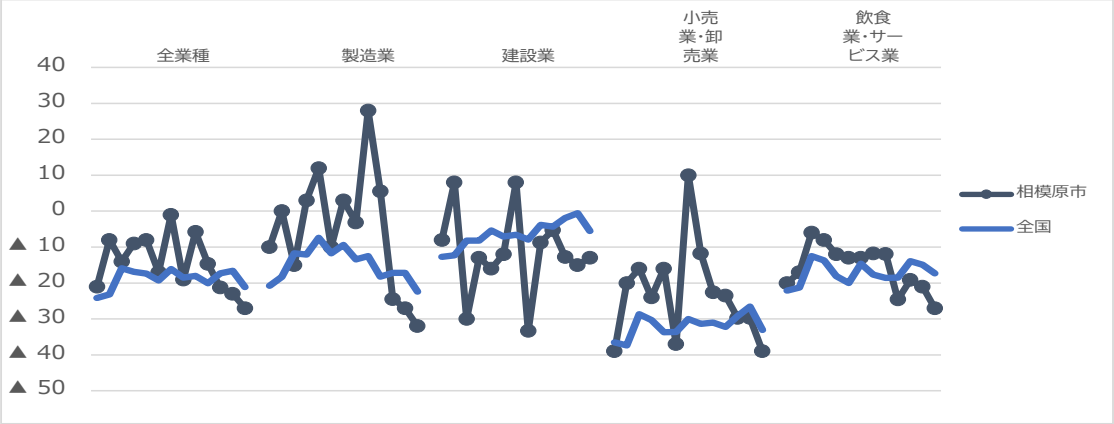
業況DI（前年同期比）の推移

全産業の業況DIは、前期▲23から▲27（前期差4ポイント減）と悪化が続く。

産業別にみると、小売業・卸売業は▲39（前期差9ポイント減）、製造業は▲32（前期差5ポイント減）で、▲30 以下に落ち込んだ。飲食業・サービス業も▲27（前期差6ポイント減）と大きな悪化となった。建設業のみが▲13（前期差2ポイント増）と、若干ながら回復の兆しが見える。全産業に広がった需要減退による不況感に加え、最低賃金上昇、有給取得義務化、保険料上昇などによる人件費の上昇による業況悪化を訴える企業が多い。小売業や飲食業・サービス業でも、オリンピック関連需要が期待されたほどには盛り上がっておらず、業況は悪化している。経営者の高齢化に伴う取引先の廃業による影響を受ける企業も出てきているようである。

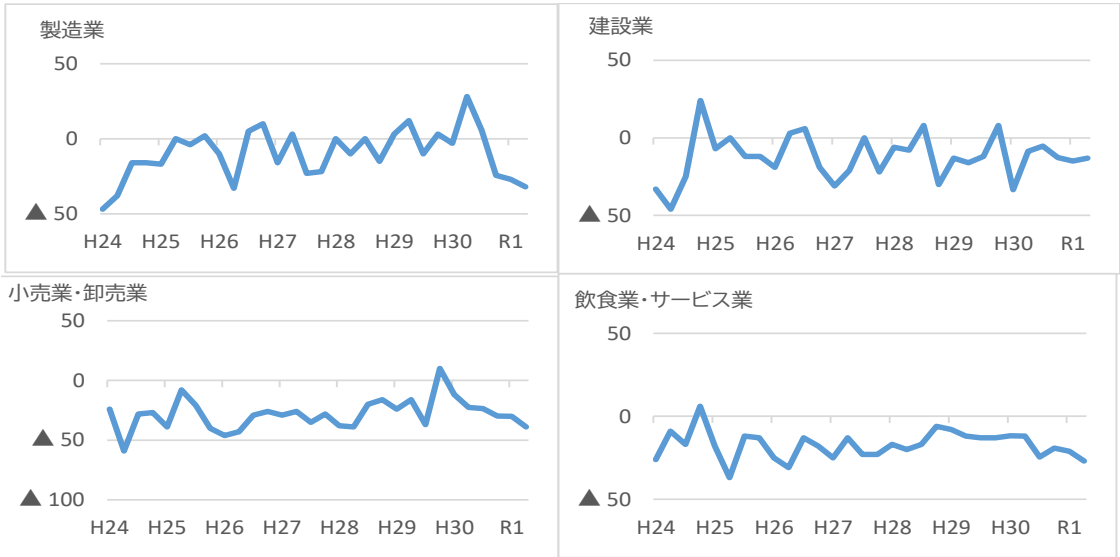
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、前期に引き続きすべての産業で全国値を下回っている。前期は全国では飲食業・サービス業を除き景況の回復が見られたが、今期はすべての産業で悪化した。全国で景況が悪化している建設業は，当市では回復がみられる。

（2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比）



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況（自社）」を質問項目としている

参考）業況DI（前年同期比）の長期推移（業種別）



業況DI（特徴的なトピックス）

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

・客先の廃業が目立つ。同業者の増加による価格競争。【自動車硝子施工販売】

・自動車市場がグローバルでは不振。特にインドの落ち込みが大きく、回復が見えていない。【塗料の製造販売】

・大不況。【治工具、金属加工】

・災害対策としての非常用発電機の需要増。落ち着いてからの需要に不安。【エンジン発電機およびエンジン動力装置並びに機械装置、電気装置等の設計、製造および付帯サービス（発電装置、燃料タンク、油庫）】

【建設業】

・オリンピックの影響で春夏の受注が低下する見込み。【マンション改修工事、防水工事】

・大手ゼネコンの大型物件終了により、来年度の全体的な物件減少が懸念される。【建築、建設物に対する金属、金物の販売、設計、施工】

・利益なしで損しているのに消費税 10%。社員に対する雇用保険、労働保険、社会保険、厚生年金等が高い。【戸建の基礎工事業】

・老後に必要な資金 2,000 万円からリフォームの依頼がとても減りました。営業に伺っても最低限のことだけにとどまっています。【一般住宅リフォーム業】

【小売業・卸売業】

・キャッシュレスでカードなどが増えて、当社負担の手数料が増えている。メーカー、問屋などからの仕入れにカードを使用したい。【自動車小売業】

・パート、アルバイトまで含めた有給の義務化、最低賃金の値上げが経営を圧迫しています。売上上げても追いつかない。【贈答品（食品、お菓子、タオル、カタログギフト）】

・冬が暖かく、冬衣料不振。バーゲン待ちが年々増加。【衣料販売】

・製造業の購買力が減った感がある。【作業着、作業用品販売】

【飲食業・サービス業】

・キャッシュレス導入のため、売上が手元に入らず、現金仕入れのため資金繰りが忙しくなった。【中華料理専門】

・伊勢丹閉店後、平日の客数が減少。【珈琲専門店】

・消費税が 10%になり、店での飲食客が減少。仕入も値上がっている。【軽食、ドリンク、ケーキ

類】

・介護事業の景気は良くない。利用者負担も増えて、利用が減っているように感じる。専門職の雇用が難しい。人手不足になる。【介護、医療、福祉事業】

・低料金業者の増加。消費者のおしゃれ感の低下。【理容業】

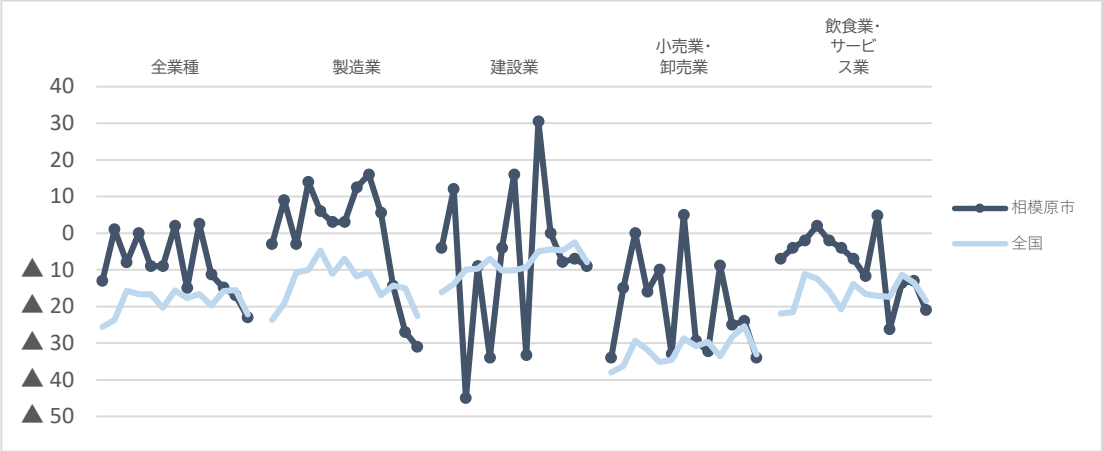
売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、前期▲17から▲23(前期差6ポイント減)と、大きく落ちこんだ。

産業別にみると、小売業・卸売業で▲34(前期差 10ポイント増)、飲食・サービス業は▲21(前期差8ポイント減)と、両業種で大きく落ち込んだ。飲食・サービス業は前期では回復の兆しがみられていたが再度の悪化となった。前期激しく落ち込んだ製造業も、落ち込み方は緩やかになったものの▲31(前期差4ポイント減)と、依然として悪化が続いている。建設業はほぼフラットの▲9(前期差2ポイント減)であった。全業種にわたり、仕事が減った、受注がない、などの声が上がっている。都市部の建設ラッシュで比較的景況が良い建設業では、オリンピック後の景況を心配する声が聞かれ始めた。

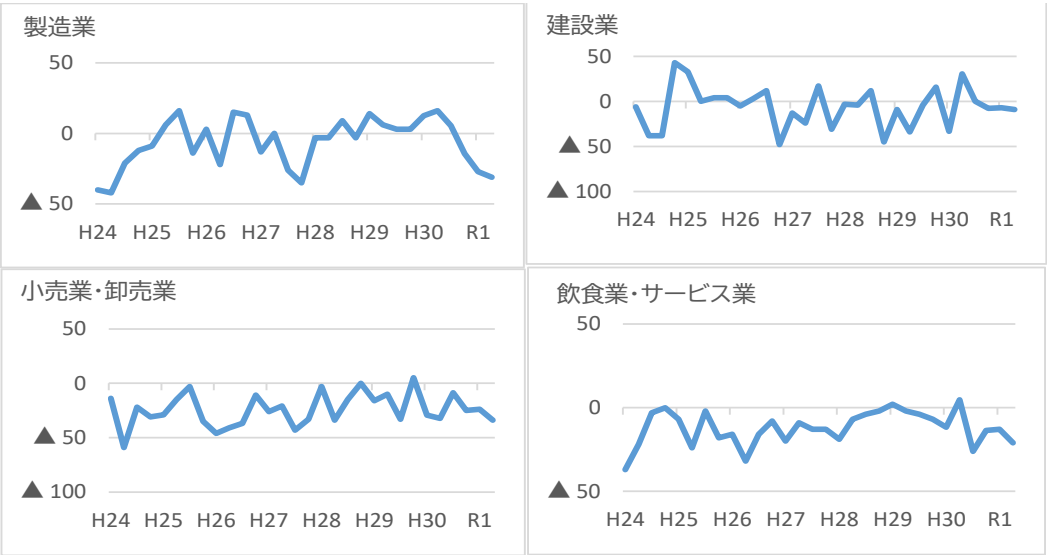
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、急激に悪化した当市製造業を除き、概ね全国値と同様の値となった。全国ではこれまで製造業・建設業は比較的安定した景況を示していたが、今回の不況は全国的なものとなってきており、当市同様に全産業で売上の減退がみられる。

(2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 売上DI (前年同期比)の長期推移(業種別)



採算DI（前年同期比）の推移

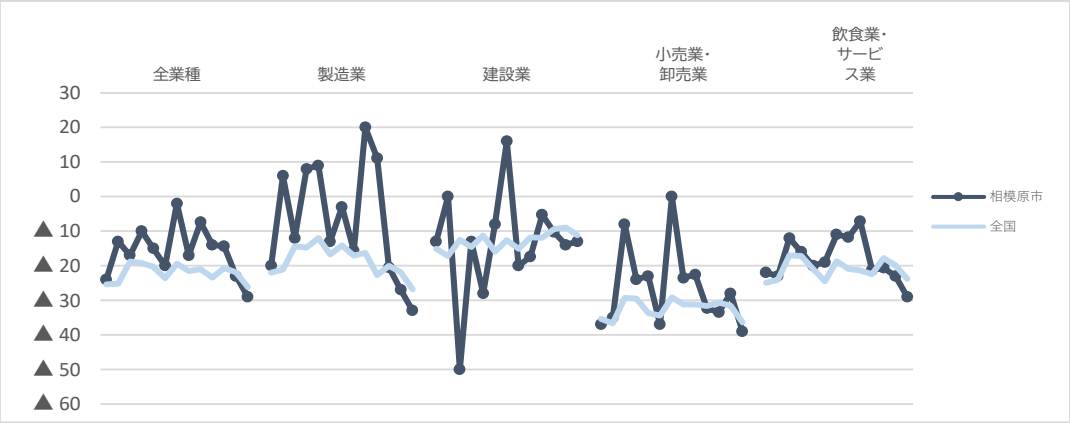
全産業の採算DIは、前期▲23 から▲29（前期差 6 ポイント減）と、やや減少した。

産業別にみると、前回回復基調が見られた小売業・卸売業が▲39（前期差 11 ポイント減）と大幅に落ち込んだ。製造業も▲33（前期差 6 ポイント減）と厳しい落ち込みが続く。しばらく景況の悪化が底を打ったかに見えた飲食業・サービス業も、▲31（前期差 8 ポイント減）と再度落ち込むこととなった。建設業は▲13（前期差 1 ポイント増）で景況はやや安定している。

前回調査では、サービス業や小売業の一部に業績が好調な企業が見られたが、今回は全産業で好況を報告する企業がほとんどなくなっている。

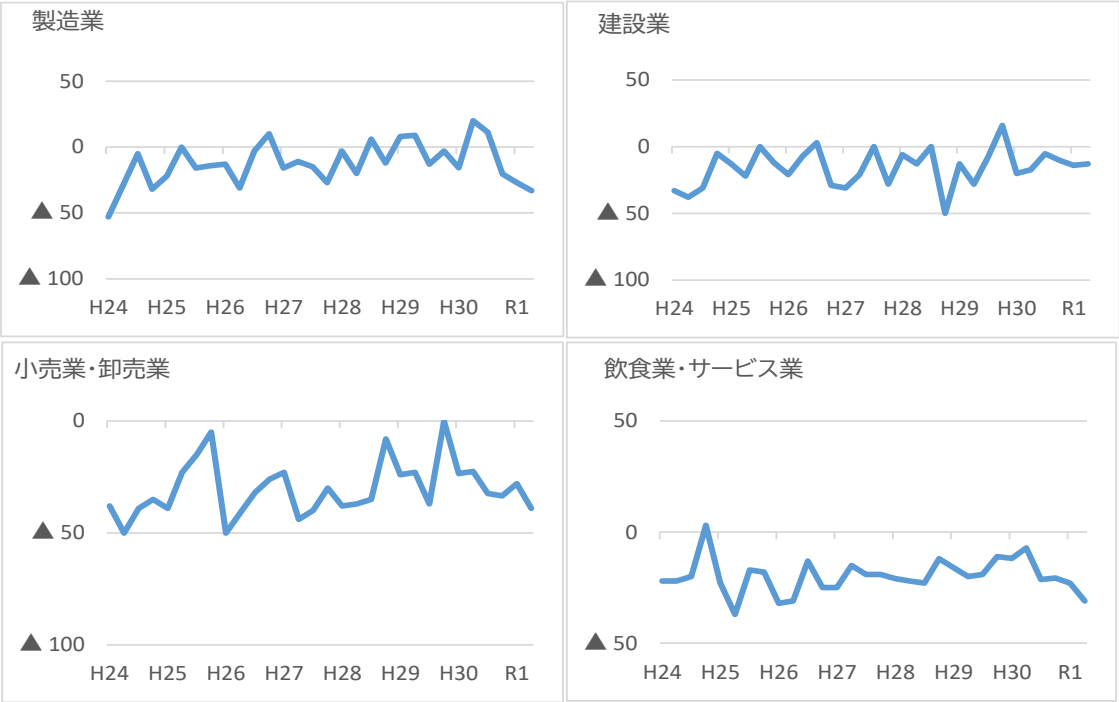
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全産業でやや全国値を下回る状況が続く。

（2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比）



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考） 採算DI （前年同期比）の長期推移（業種別）



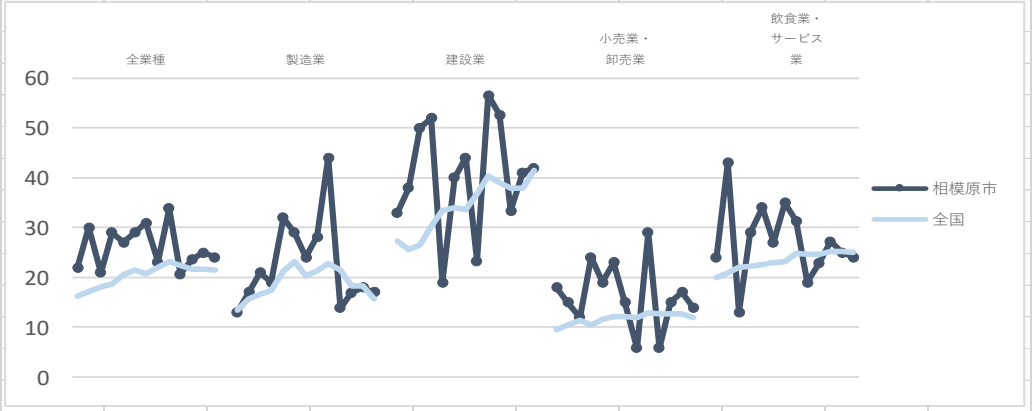
従業員DI（前年同期比）の推移

全産業の従業員DIは、前期 25 から 24（前期差 1 ポイント減）でほぼ変化がなかった。

産業別にみると、飲食業・サービス業が 24（前期差 1 ポイント減）、製造業は 17（前期差 1 ポイント減）、小売業・卸売業は 4（前期差 3 ポイント減）で前期とほぼ変わらず人手不足感は落ち着いている。建設業では 42（前期差 1 ポイント増）と、慢性的な人手不足が続く。コメントでは、人手不足が深刻な建設業や飲食業・サービス業に加えて、製造業でも人手不足を訴える声が増え始めている。

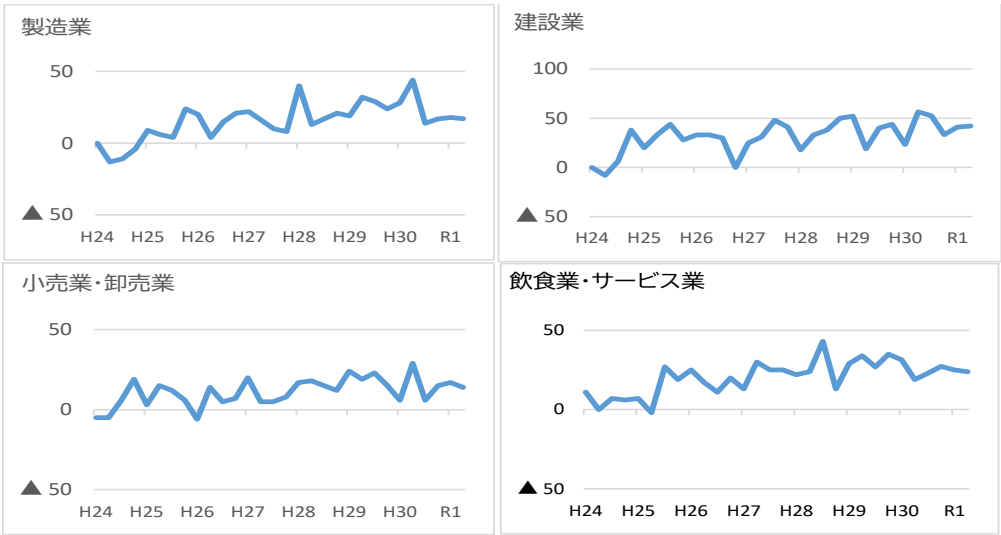
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業、小売業・卸売業、建設業が全国値を上回っている。飲食業・サービス業は、当市が低下し全国を若干下回るようになった。

（2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比）



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準（過去との比較ではない）」を調査
※従業員DIについて、当所では「DI＝不足―過剰、中小企業庁は「過剰―不足」で算出。
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考） 従業員DI （前年同期比）の長期推移（業種別）



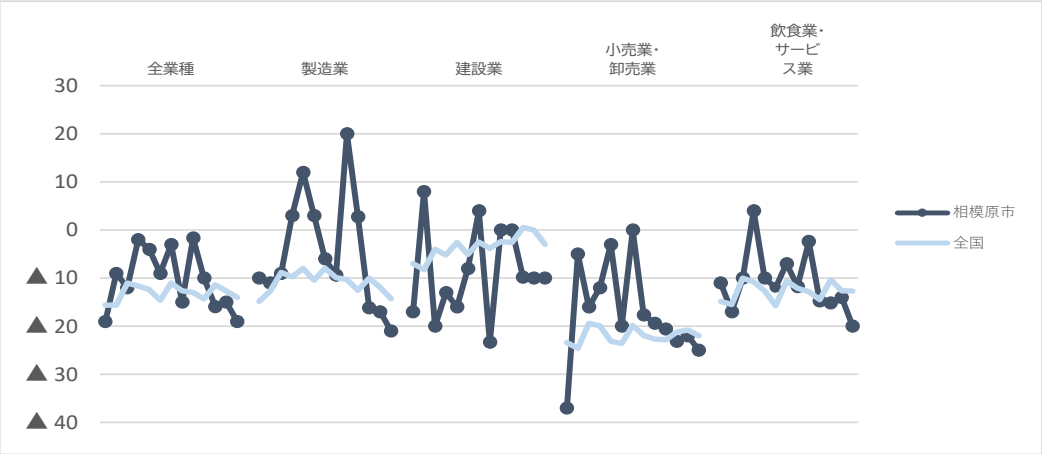
資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、前期▲15から▲19(前期差4ポイント減)で前期からほぼ横ばいであった。

産業別にみると、飲食業・サービス業は▲20(前期差6ポイント減)、製造業で▲21(前期差4ポイント減)、小売業・卸売業で▲25(前期差3ポイント減)と、建設業を除いて資金繰りが悪化した。建設業は▲10(前期差±0ポイント)と横ばいであった。飲食業・サービス業ではキャッシュレス拡大による回収期間の伸びと、製造業では仕入れにかかる消費税の負担増などを訴える企業が多い。

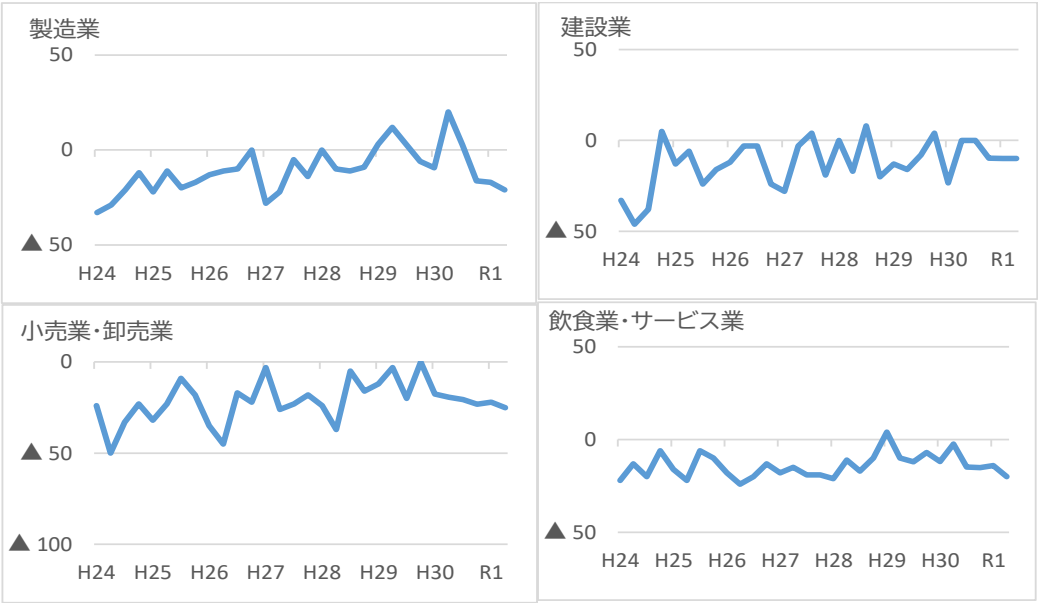
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、全国でも資金繰りの変化はやや悪化傾向にある。建設業と製造業では前期から引き続き全国よりも資金繰りの状況が悪い。

(2016年10-12月期～2019年10-12月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



仕入単価DI（前年同期比）の推移

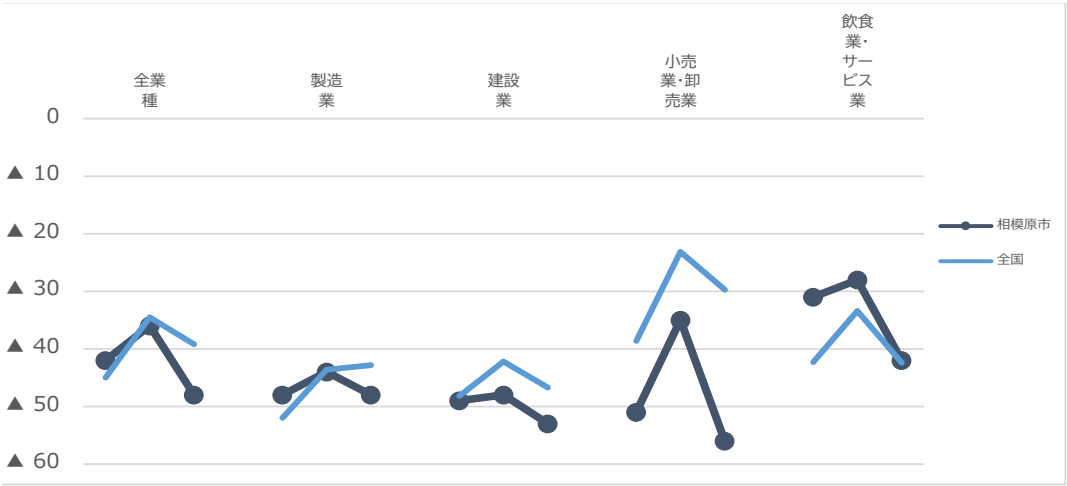
全産業の仕入単価DIは、前期▲36 から▲48（前期差 12 ポイント減）と、大幅に悪化した。

産業別にみても、全産業でDIが悪化している。特に大きく悪化したのが、小売業・卸売業の▲56（前期差 21 ポイント減）と、飲食業・サービス業▲42(前期差 14 ポイント減）である。製造業は▲48（前期差 4 ポイント減）、建設業は▲53（前期差 5 ポイント減）で、低位のままやや悪化している。

小売業・卸売業と飲食業・サービス業の仕入単価の上昇は、消費税増税の影響が大きいようである。

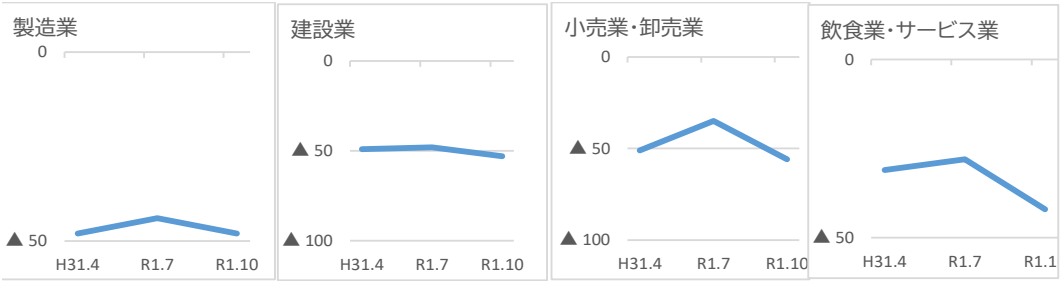
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、数値の増減は全国と同じ傾向を示しているが、数値としては、飲食業・サービス業を除いては全国よりも数値が悪い状況が続いている。

（2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比）



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※仕入単価DIについて、当所では「DI＝下落―上昇、中小企業庁は「上昇―低下」で算出。
比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考）仕入単価DI（前年同期比）の長期推移（業種別）



販売単価DI（前年同期比）の推移

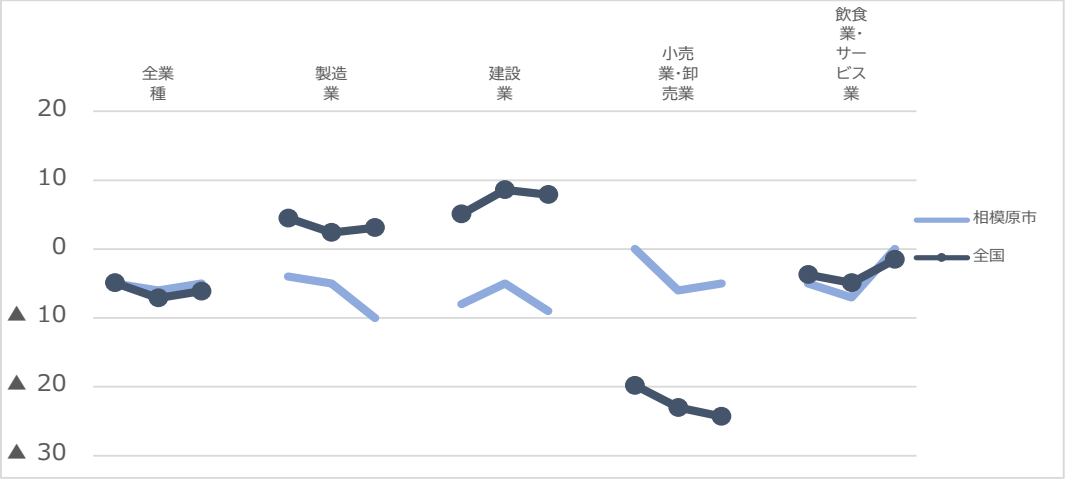
全産業の販売単価DIは、前期▲6 から▲5（前期差 1 ポイント増）と、ほぼ横ばいであった。

産業別にみると、飲食業・サービス業は 0（前期差 7 ポイント増）と小売業・卸売業は▲5（前期差 1 ポイント増）で、単価が上昇した。一方で、製造業は▲10（前期差 5 ポイント減）、建設業は▲9（前期差 4 ポイント減）と、やや悪化している。

販売単価の上昇も、消費税増税の影響によるところが多いと思われるが、働き方改革の折、飲食業を中心としたサービス業と小売業の慢性的な低価格が問題となってきており、収益性の低い受注を避けようとする業者も出てきている。

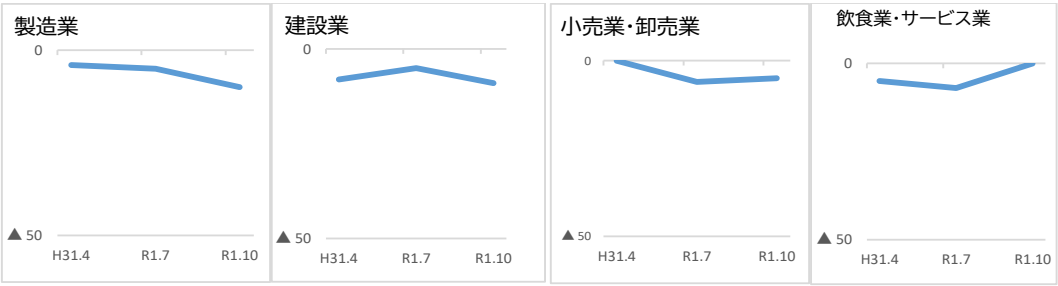
産業別に今期の数値を全国値と比較すると、製造業・建設業では当市のほうが低位であるが、小売業・卸売業では当市のほうがかなり良い状況である。

（2016 年 10-12 月期～2019 年 10-12 月期、前年同期比）



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所 LOBO/建設業 2019 年 7 月」分類の値を使用

参考）販売単価DI（前年同期比）の長期推移（業種別）



集計表（景気観測調査）

			今期（2019.10～2019.12）				次期見通し（2020.1～2020.3）			
			売上：増加 採算、資金、総合：好転 仕入：下落 販売：上昇 従業員：不足	不変	売上：減少 採算、資金、総合：悪化 仕入：上昇 販売：下落 従業員：過剰	合計／DI値	売上：増加 採算、資金、総合：好転 仕入：下落 販売：上昇 従業員：不足	不変	売上：減少 採算、資金、総合：悪化 仕入：上昇 販売：下落 従業員：過剰	合計／DI値
製造業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	47	80	124	251	48	92	111	251
		構成比	19	32	49	▲ 31	19	37	44	▲ 25
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	37	95	119	251	37	114	100	251
		構成比	15	38	47	▲ 33	15	45	40	▲ 25
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	3	124	124	251	3	163	85	251
		構成比	1	49	49	▲ 48	1	65	34	▲ 33
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	20	187	44	251	10	196	45	251
		構成比	8	75	18	▲ 10	4	78	18	▲ 14
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	56	181	14	251	49	186	16	251
		構成比	22	72	6	17	20	74	6	13
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	17	165	69	251	15	172	64	251
		構成比	7	66	27	▲ 21	6	69	25	▲ 20
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	31	109	111	251	34	112	105	251
		構成比	12	43	44	▲ 32	14	45	42	▲ 28
建設業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	43	82	59	184	27	104	53	184
		構成比	23	45	32	▲ 9	15	57	29	▲ 14
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	27	106	51	184	20	114	50	184
		構成比	15	58	28	▲ 13	11	62	27	▲ 16
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	4	79	101	184	2	108	74	184
		構成比	2	43	55	▲ 53	1	59	40	▲ 39
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	14	139	31	184	15	144	25	184
		構成比	8	76	17	▲ 9	8	78	14	▲ 5
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	81	99	4	184	72	108	4	184
		構成比	44	54	2	42	39	59	2	37
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	19	127	38	184	16	137	31	184
		構成比	10	69	21	▲ 10	9	74	17	▲ 8
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	23	115	46	184	19	118	47	184
		構成比	13	63	25	▲ 13	10	64	26	▲ 15
小売業・卸売業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	29	39	80	148	21	61	66	148
		構成比	20	26	54	▲ 34	14	41	45	▲ 30
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	17	56	75	148	18	69	61	148
		構成比	11	38	51	▲ 39	12	47	41	▲ 29
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	4	57	87	148	2	82	64	148
		構成比	3	39	59	▲ 56	1	55	43	▲ 42
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	30	81	37	148	18	99	31	148
		構成比	20	55	25	▲ 5	12	67	21	▲ 9
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	30	109	9	148	19	119	10	148
		構成比	20	74	6	14	13	80	7	6
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	7	97	44	148	9	103	36	148
		構成比	5	66	30	▲ 25	6	70	24	▲ 18
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	13	65	70	148	13	76	59	148
		構成比	9	44	47	▲ 39	9	51	40	▲ 31
飲食業・サービス業	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	93	144	179	416	88	177	151	416
		構成比	22	35	43	▲ 21	21	43	36	▲ 15
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	46	197	173	416	58	209	149	416
		構成比	11	47	42	▲ 31	14	50	36	▲ 22
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	9	224	183	416	5	279	132	416
		構成比	2	54	44	▲ 42	1	67	32	▲ 31
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	65	288	63	416	38	316	62	416
		構成比	16	69	15	0	9	76	15	▲ 6
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	116	283	17	416	105	295	16	416
		構成比	28	68	4	24	25	71	4	21
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	27	278	111	416	29	283	104	416
		構成比	6	67	27	▲ 20	7	68	25	▲ 18
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	39	227	150	416	50	219	147	416
		構成比	9	55	36	▲ 27	12	53	35	▲ 23
全業種総合	売上	ｻﾝﾌﾟﾙ数	212	345	442	999	184	434	381	999
		構成比	21	35	44	▲ 23	18	43	38	▲ 20
	採算	ｻﾝﾌﾟﾙ数	127	454	418	999	133	506	360	999
		構成比	13	45	42	▲ 29	13	51	36	▲ 23
	仕入単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	20	484	495	999	12	632	355	999
		構成比	2	48	50	▲ 48	1	63	36	▲ 34
	販売単価	ｻﾝﾌﾟﾙ数	129	695	175	999	81	755	163	999
		構成比	13	70	18	▲ 5	8	76	16	▲ 8
	従業員	ｻﾝﾌﾟﾙ数	283	672	44	999	245	708	46	999
		構成比	28	67	4	24	25	71	5	20
	資金繰り	ｻﾝﾌﾟﾙ数	70	667	262	999	69	695	235	999
		構成比	7	67	26	▲ 19	7	70	24	▲ 17
	業況	ｻﾝﾌﾟﾙ数	106	516	377	999	116	525	358	999
		構成比	11	52	38	▲ 27	12	53	36	▲ 24

集計表(トピックス)

製造業
特殊作業の販売先の担当者によって増減がある。【産業機械部品】
客先の廃業が目立つ。同業者の増加による価格競争。【自動車硝子施工販売】
10 月の消費税増税の影響を感じています。【段ボール箱の製造販売】
2019 年秋口以降、市場に低迷。年明け以降も半年以上は仕事量が減少となる。【業務用電子機器製造】
2020 年オリンピック関連後の動向に注視している。【人工大理石加工製造業】
2020 年後半は景気が悪化すると思われる。【プレス機械および自動化装置の設計製作】
2020 年度の景気下落が心配。【キャンピングカー製造販売、自動車アクセサリー製造販売】
2 月までは好況だが、4 月以降の動向がわからない。【トラック外装部品】
GW 明けより受注状況が悪くなっているように感じる。【板金加工物の製造販売】
ソフトウェアへの移行が急速に進んでいる印象を受けています。【自動化設備の製造、販売】
トヨタ自動車以外不振。【切削工具製造および再研磨】
ファックスでいいのに、販売先からの受注が IT 化されたこと。【ジャズポップコーンおよびコーン原料製造販売】
プリンターなどの普及により個人消費者が少なくなった。【軽印刷業】
メーカーが値上げするから材料の値上げ等が発生しています。中小対策対応を検討中としていますが、実のある実行を強く望みます。【建設・基礎機械部品製造、修理】
リーマンショックほどのことではないが、5 月以降、売上が低迷している。現状が続くものと思われる。【金属焼付塗装(粉体塗装)】
意欲のある若人がいない。米日摩擦による半導体産業の一時的低下。【半導体製造設備装置、人工衛星用装置】
引き合いが多いがオリンピックまでの期間限定と捉えている。【広告造形物、立体模型】
海外情勢の影響が不安。【医療部品、センサー部・各種シャフト品など】
海外情勢不安の長期化により 10 月より受注量の低下。来年初旬よりゆるやかに回復傾向。【自動機械設計、製作、販売】
機械の設備投資が低水準で推移している。【電気機械】
気温が低く、商品の販売量に影響。【組紐製造】
求人に対して応募がない。【FA、メカトロニクスの設計・製造】
求人をかけても人材が集まらない。【ワイヤーハーネスの加工、販売】
近くまとまった受注があり、その仕事が動き出せば売上げが上向いて資金繰りが安定する予定。【精密機械部品加工】
景気感悪い。定時に帰る企業が多い。2 次下請け先から仕事が欲しいという話が多くなってきている。【板金加工及び盤配線工事】
景気不況による受注低下。前年の 1/3 に減少。【光学ガラス加工】
景況にあまり捕らわれない業種のため、景気低落時に強みを持っている。【輸送機用部品加工】
経費節減と社会の動きが鈍っている。【印刷(封筒、業務用伝票、名刺、チラシ)】
見積り依頼の頻度が少なくなっている。打合せ期間が長すぎる。【立体造形物の製作・施工】
雇用状況は、1 年以上の技術者の求人に対して、ほぼ応募がない。【自動制御装置設計製作、自動省力装置設計製作】
顧客の内製化と売上減に伴い当社の注文減。雇用は、フライス・施盤加工従事者を募集するが集まらない。【金属、樹脂部品の切削加工、プローブ関連部品の加工および装置部品加工、治具製作】
公的機関(特に大学関係)が予算激減したと感じます。【空気圧機器製造、卸売】
国内の不況感と売上減。海外の好況感と売上増。【自動串刺機】
最悪の状況。【印刷業】
最低賃金の上昇による人件費のコスト増大【自動車部品の組立、検査】
災害対策としての非常用発電機の需要増。落ち着いてからの需要に不安。【エンジン発電機およびエンジン動力装置並びに機械装置、電気装置等の設計、製造および付帯サービス(発電装置、燃料タンク、油庫)】
災害復興需要、オリンピック需要、駆け込み需要が一巡に加え、消費税増税により景気は確実に悪化すると考えます。しかし営業努力により年率 5%程度の伸びを目標に努力しています。【化粧品の製造および販売】
材料の高騰による仕入れ先の状況。かなり無理なこと、異常な要求があり、不安要素があると思う。【段ボー

ル製函、紙器一式製造販売】
仕事量が多い時はすべて重なり、社員の確保ができない。少ない時は仕事量に対して単価を下げざるをえない。【ケーブル加工、エレベーターの釦結線、半導体の制御盤などの組立や配線】
仕事量の減少。【工作機械部品】
仕事量の減少によりライバル会社との価格競争が激しくなってきた。【板金業】
資金がショートしている。【金属加工業】
時代と共に衰退している分野と感じる。高機能で高価なものより低価格でまずまずの物が好まれている。【空調設備】
自社ブランド製品の市場競争力の低迷を改善したい。【サーボドライバーの製造、販売】
自動車市場がグローバルでは不振。特にインドの落ち込みが大きく、回復が見えていない。【塗料の製造販売】
若年層の人手不足。【精密板金加工】
取扱量の減少（15％減）【金属合紙の再生、供給】
受注が減少している。売り上げが下降している。【プリント基板の実装、組立筐体等の組立、配線】
受注が減少している。売り上げが下降している。売上が下降している。【プリント基板の実装、筐体等の組立、配線】
受注の減少、数量少量化、納期延期【建設機械部品加工】
受注の減少【NC 旋盤加工、オイルレスブッシュ】
受注の減少【プレス】
受注の減少【精密部品加工】
受注状況の不透明化（予定が立たず短納期を求められている）【工業製品塗装】
受注状況は主力先からの受注に下振れ懸念あり。雇用状況は入退社の出入りが激しい。【輸送用機械器具製造、精密板金加工】
受注数の減少。【化粧品】
受注先の倒産【衣料品加工】
受注単価の低下による売上不振【印刷業】
受注量の減少。【真空装置関連の部品加工】
従業員が不足。【生産用機械製造業】
従来の仕事内容が変わってきている。【ゴムパッキン加工、部品組立】
小売に関しては不景気。【酒粕製造、販売】
消費の低迷により受注数が減少しており、ラインが度々止まる現状になっている。【ガラス瓶の製造および加工】
消費税増税にて不安に思う方が多くなって消費しない。【畳製作】
消費税増税による消費の低下は想定していたほどはなかったが、配送料などの諸経費の全体的な値上がりにより、収益率は大幅に低下している。【健康食品の製造、販売】
上半期の売り上げが悪かった。下半期は持ち直しつつある。
食品関係を除くすべての顧客売上げ減少。【角型紙管等の製造】
新規、改変案件の減少。【電子回路基板設計、製造、販売】
新卒を含め人材不足の状況【雷観測装置、雷防護素子、保安器、航空障害等など】
親会社の発注量が業界の不安定性から視界不良の状態。不況感がある。
人手不足による建築工事の進行遅れ【工業用化成品加工】
世界情勢が不安定。熟練工が不足（技術力の低下）【シャフト、ベアリングケース、軸受】
先行きの一層の不透明感。【オフセット印刷】
先行きの不透明感。【制御盤設計製作】
台風の影響による特需あり。【ヨットのマント、リギン設計、製造】
大手企業の下請けのせいか、仕事の上では忙しいが利益が少なく経営面では大変。【各種（木製、鉄製）パレット製作、梱包作業、鉄製品設計製造】
大不況。【治工具、金属加工】
単価下落。人件費上昇。売上不振。【金属製品製造業】
中国の景気の影響が大きい。【電子部品製造販売】
注文の減少【金型、プレス加工】

当社関連の企業も、他の中小零細企業はどこも苦境。【印刷】
働き方改革により労働時間の制限があり、人材を増やすにも人件費が増えることになり経営も大変です。【卒業アルバム印刷、一般印刷】
入札制度を見直してほしい。【輸送補助リフト】
売り上げ上位を占める顧客の今後のフォーキャストが見えなくなってきている。【プリント基板の実装、組立】
売掛、買掛サイクルのギャップによる資金繰りの悪化。【工業用製品開発、試作】
売上増加しているが、材料費も高くなっており、利益率が良くならない。【金属製品製造業】
半導体業界の外交問題を起因とする動き。【精密機械向け板金製品の製造】
半導体需要の落ち込み【プラスチックチューブの製造販売】
不況と感じている。【発砲プラスチック加工販売】
不況感は否めないが特定の加工先のニーズが増加している。半面、経費がかかる。【軟質ポリウレタンフォーム加工およびウレタンチップフォーム製造加工】
不景気【板金加工】
不採算製品の生産を停止した。【プリント基板設計・製造】
米中関係悪化により新規の案件が少ない。【自動車部品プレス金型製作】
米中経済戦争による不景気ムードの浸透【テーブルスポット溶接機（溶接機械）の設計、製造、販売】
米中貿易、消費税の影響があり、不況になっている。【精密部品加工】
米中貿易摩擦をはじめとした海外情勢の影響を受け、国内外の設備投資、耐久財消費の調整圧力が高まり、受注残の減少が進んでいます。【歯車製造、大型部品機械加工】
輸出関連業種が軒並み生産調整しており、回復は不透明。【金属機械加工業】

建設業
客先の定期的な改装、改修、設備入替え等が減少した。【厨房設備関連（電気・給排水・空調等）】
10 月に建設（建築）投資が落ち着いたことと、景気の悪化に見舞われる企業がでてきた。【建物解体】
インターネット上にある激安工事価格【住宅、店舗リフォーム】
オリンピックの影響で春夏の受注が低下する見込み。【マンション改修工事、防水工事】
遠距離移動が多いため、ガソリン代高騰の上、消費税増税などは今後影響が出てくると思う。東京 2020 のオリンピックにおける交通規制が心配。【防犯設備】
下請業者を探すのが大変。見つかっても単価（金額）をすり合わせるのが大変。人手不足のせいと思われる。【団地修繕、公共建築、一般リフォーム】
解体業のブローカーが多い。【解体業】
協力会社不足。【電気工事】
業界全体の人員不足【電気工事、機器設置】
景況感は良いほうだと思う。【総合建設業】
経費アップが厳しい。【タイル工事、タイル加工】
建築職人の高齢化と減少。【総合建設工事】
個人消費の低迷【カーテン、ブラインド】
雇用状況が良くない。募集しているが応募ゼロ。【管、電気、建築】
雇用状況により仕事があってもできずにいる。【解体業、産業廃棄物処理業】
雇用状況は厳しい。受注については、オリンピック後の景気下降と消費税の影響が 10 ヶ月後くらいからじわじわくると思われる。【鉄骨階段、その他鉄製作加工、取付】
公共工事は減少したが、民間の受発注は増加。【造園工事】
公共工事発注額が減っている。【公共事業（土木、下水道、道路他）】
工事の受注が減った。【外構工事】
材料代等の値上り、従業員の有休など厚生費の費用への支出は年々増えるが、工事代金は上がらない。【防水工事】
仕事の受注は増えているが雇用がなかなか難しい。ハローワークに出しても応募なし。【造園土木】
仕事は取りたいが、雇用が先か受注が先か判断しづらい。雇用後の受注が継続するかも心配。【塗装・防水・外壁改修全般】
仕事を受注したくても人手不足のため、機会はあっても受注できていない。【電気工事業】

仕入単価の上昇【防水工事、屋根板金工事】
市の公共工事がひと段落しており、見直し等で先行きが不明。【管工事業】
市の工事発注額が減っている。【公共工事（土木、下水道、道路他）】
自然災害保険使用多くあり。【アルミバルコニー、テラス、サンルーム、門扉、フェンス、ゲート他】
社員の質が下がっている。【リフォーム】
社員の退職による受注数減。【機械据付】
若い人が建設業を好まないので採用できない。【土木工事、外構工事】
若い人の雇用がうまくいかない。【住宅リフォーム】
若手人材の不足。【電気工事業】
受注の減少が感じられる。【土木】
従業員、職人不足【外構工事、宅地造成工事】
従業員および職人不足。【電気工事業】
従業員減少。雇用が困難。【空調配管設備業（ダクト）】
消費税増税【造園、土木】
職人不足による工事依頼増加。外国人雇入れ。【屋根工事】
人員確保が難しい。【測量、大工工事業】
人件費の上昇【造園、土木工事業】
人材不足（経験者、資格保持者がいない）【重機による掘削工事】
人材不足。【鉄骨建方、元締】
人材不足のため、せっかく依頼をいただいても受注しきれずお断りすることが増えた。元請自体も人材不足を認識しており、福利厚生費を出すなど職人不足に対応し、他との差をつけてくれるところが出てきた。【内装仕上工事】
人手不足。【冷蔵・冷凍、空調機器の撤去、設置工事】
人手不足。入っても数か月から１年くらいでやめてしまう人が多いので、人材育成費がかかりすぎている。【建築物のキズ補修】
数年前より不況。今年度は個人宅の剪定は減少。【造園・保守管理】
設備投資の減少【電気工事】
先行きが不透明で取引先ごとに意見が違う。【内装仕上工事】
大手ゼネコンの大型物件終了により、来年度の全体的な物件減少が懸念される。【建築、建設物に対する金属、金物の販売、設計、施工】
働き方改革による労務費負荷。対する売上は変化なし。【造園、土木】
同業者（下請工事業者）、従業員不足【屋根・金属・防水・建築一式、リフォーム工事一式】
同業種での奪い合いにより仕事は減ると思う。単価が下がり、収支の悪化が懸念される。【型枠工事】
得意先の予算に合わせることが多く、粗利益の差が大きい。【特注家具設計施工】
売上増の努力のみです。【外構工事】
必要な技術者の雇用ができず、仕事があっても技術者不足で対応できない。【移動体基地局工事および保守】
不況感。【新築、リフォーム】
不景気のため受発注の数が少ないことが売上減少につながっていると感じる。【左官タイル工事請負】
米中貿易戦争の影響等による企業の設備投資の手控え。【土木・建築工事請負事業、不動産事業】
民間企業の設備投資の勢いがない。【電気設備工事】
利益なしで損しているのに消費税 10%。社員に対する雇用保険、労働保険、社会保険、厚生年金等が高い。【戸建の基礎工事業】
老後に必要な資金 2,000 万円からリフォームの依頼がとても減りました。営業に伺っても最低限のことだけにとどまっています。【一般住宅リフォーム業】

小売業・卸売業
業界における販売市場の不透明感がある。【非鉄金属部品等の販売】
アメリカファーストおよび EU を中心とした経済悪化ですべての動き（特に新製品開発）が鈍い。来年は少し上昇すると思う。【医療用、工業用レンズの輸出】

キャッシュレス 5%還元事業のため、キャッシュレスの方が増えた。以前からだが 10 月以降はお客様が本当に必要なものしか買わなくなった。【学校用品小売販売】
キャッシュレスでカードなどが増えて、当社負担の手数料が増えている。メーカー、問屋などからの仕入れにカードを使用したい。【自動車小売業】
クレジット等支払増加による手数料負担。【各種菓子類】
ネットショッピングの伸長と実店舗の需要減。【家電製品販売】
ネット販売との競合【機械工具商】
パート、アルバイトまで含めた有給の義務化、最低賃金の値上げが経営を圧迫しています。売上上げても追いつかない。【贈答品(食品、お菓子、タオル、カタログギフト)】
右肩下がりです。【酒、タバコ、食品】
運送費が利益を圧迫【安全靴、作業服】
荷造運賃の上昇【介護用食品の開発、販売】
既存顧客の売上げが横ばい。【輸入鶏肉製品卸】
客数の減少。来客者の高齢化。【金券全般売買、リサイクル品委託販売、趣味品(切手、コイン、プリカ)売買】
競合の出店が多い。【ドラッグストア】
景気感は非常に悪く、受発注の状況も悪い。【建材資材卸売業】
経費(銀行等の手数料など)が値上っているが、ユーザーにはなかなか値上げができない状況。【LP ガス、白灯油】
個人消費の減少【塩ビパイプ継手】
個人消費の低迷(消費者の買い控え)、ネット販売の台頭、欲しい商品が入荷しない(量販店が先?)【玩具、駄菓子販売】
個人消費の低迷(消費税増税後、さらに加速)【食品スーパー】
個人消費者が財布のひもを締めていて消費に回ってこない。【化粧品販売】
顧客の減少および元請からの材料支給増大のため、売上不振。【建設資材販売】
高額品が売れているが、客数は減少している。【美術品、絵画】
最低賃金の高騰による経費の増大や従業員の労働時間制限。【コンビニエンスストア】
仕入れの減少【自動車買取、販売】
仕入れ価格の上昇。取引先(仕入先)ミスや不誠実な対応に苦労している。【中古自動車等の輸出入】
仕入単価の上昇【生花、園芸品販売】
自動車の世界的な販売不振。エンジンからモーターに移行など今後縮小していく状況がある。
車業界の構造的な負の連鎖。【自動車部品卸売】
取引先が高齢化などにより廃業。ネット販売の増加で売上高の減少。【金物、雑貨】
需要が減少。【呉服、小物の小売業】
収入が少なく、物価が少しずつ高くなっているため、売上が落ちている。【履物全般】
小口宅配料の値上げ。【農業用造園機械中古機販売】
消費者状況(消費の二極化)【食品、衣料品、生活用品等全般】
消費税 10%により仕入れ原価が高くなる。【中古自動車の輸出】
消費税アップの影響で消費動向が下がった。働き方改革で残業手当がなくなり、家計が苦しくなったため、消費が下がっている。【メガネ、コンタクトレンズ、補聴器】
消費税アップの関係で Iot 単価の低減。購入数が減った。【やきとり、からあげ専門店(惣菜業)】
消費税アップ後の買い控え。【衣料品販売】
消費税が増税され、消費者の買い方がより細かくなってきているような感じがする。【コンビニエンスストア】
消費税増税による影響。ネット販売による来店客の減少。【スポーツ用品】
消費税増税のころから売上がさがってきました。思っていたよりもキャッシュレス支払いが少ない。【自動車販売、修理】
消費税増税以降、消費にシビアになっている。物より事への消費に移っている。【衣料品、住まいの品、食料品】
消費税増税後の反動で買い控えがある。セール待ちによる来店および購入内容(単価)の減少。【スーツなどビジネスアイテムの販売】
消費税増税前の駆け込み、まとめ買いが増税後の落ち込みと波はあったものの戻りは早く、通期では増税

による大きな影響、変化は感じられません。【衣料品、住まいの品、食品、飲食、ゲーム、ネットスーパー、その他サービス】
人件費高騰による様々な支障。扶養控除の枠内で働く主婦パートを多く使っているため、人数を増やさなければいけなくなり、その負担がかかってきている。【弁当、惣菜】
人材の質が悪く、雇用できない。【車販売、整備、修理、車関連小売】
製造業の購買力が減った感がある。【作業着、作業用品販売】
台風と天候悪のため、客数減。【薬】
大型店進出、ドラッグストアなど値段で太刀打ちできない。個店を大事にしてほしい。【化粧品販売】
通販、ネット販売等への対策が不可欠だができない。得意先の高齢化(店主も含め)【時計、メガネ、宝飾】
店売りの減少。雇用苦戦。キャッシュレス決済大幅増の手数料増加に不安。【事務用品販売】
冬が暖かく、冬衣料不振。バーゲン待ちが年々増加。【衣料販売】
働き方改革による現実とのギャップ【自動車ディーラー】
年末は受注も確保できているが、来年は家電の落ち込みが激しいと思っている。【家電販売、空調工事、防犯カメラ工事、LED 化工事】
配送費高騰【文具、OA】
配達員の不足と高齢化【牛乳および乳製品の宅配】
買い控える傾向がある。仕入れ値の上昇。【乾物食品販売】
不況。【タバコ、切手類】
不況感がある。【野菜卸】
米中貿易摩擦の影響がここまで出てくるとは想定外。【工業用樹脂加工品、ゴム製品】
米中貿易摩擦の影響が間接的にあります。【電気絶縁材料の卸売、加工】
来店客の減少。単価が低いものになった。必要なものは安いものに変わった。

飲食業・サービス業
最低賃金の値上げ、仕入の値上げ、個人消費低迷のため、利益率悪化。【中華レストラン】
2020 年以降の景況感は不透明で投資、事業拡大はできない。【機械部品、住宅設備他】
オーナー様自身に予算がなく、なかなか設備投資しないので、依頼内容が減っているような状況です。【ビル、ハウスクリーニング】
キャッシュレス導入のため、売上が手元に入らず、現金仕入れのため資金繰りが忙しくなった。【中華料理専門】
とにかく景気が悪いと感じる。原因は増税と思われる。【執筆業、集客代行】
ドライバー不足【建設機械】
ドライバー不足【建築資材】
パートを希望される年齢層が 70 歳を超えていることです。【ビルメンテナンス業】
ホテル業界は景気や社会情勢に大きく左右される。今期は、近隣競合店との価格競争、1名当たりの利用金額の変動が時期や天候等で大幅にぶれた。今期後半より販売価格の設定の見直しとマニュアル化し、平均単価の底上げを実施しており、オリンピックへと良い状態でつなげたい。【ホテル、レストランの経営】
マイナス金利継続の影響【保証業務】
ランチ営業は好調だが、ディナーは客の入りが良くない。結果、客単価が下がっている。【洋食全般】
リニューアル完了後、11 月になって約 1 年ぶりの前年比(売上)クリア。【ショッピングセンターの運営、管理業務】
安さを求めすぎている感がして怖い連鎖と思われる。【自動車板金塗装】
安定した人材の確保から新入社員(新卒時)の受入態勢が必要となる。国の指定事業となり、2 年後の福祉計画等で大きく変わることで事業運営が厳しくなる。【障碍者福祉サービス】
伊勢丹の撤退等、相模大野のエリア的な景気衰退傾向の影響が大きいと感じる。【仲介業】
伊勢丹閉店後、平日の客数が減少。【珈琲専門店】
依頼内容がすっきり行くものが少ない。時間がかかる。【不動産仲介】
飲食店の賃借人の景気が悪く感じられる。【ビル、駐車場等の賃貸】
運転手不足。運賃の値上げ。【食品、販促物】
永年注文先の受注が安定していなかった。【建築設計監理、建物等移転補償算定業務】

夏期より 10 月、11 月に不況感が出てきた。【非破壊検査業務】
介護事業の景気は良くない。利用者負担も増えて、利用が減っているように感じる。専門職の雇用が難しい。人手不足になる。【介護、医療、福祉事業】
介護収入の単価が高く、人件費の上昇をカバーできない。消費税アップは収入には反映されない。研修が多く、収入の減少になる。【訪問介護】
介護保険の締付けが厳しい。【デイサービス】
企業コンサルを行っているが、支援先製造業は四半期ごとに悪化している。【コンサルティング】
機械の景況感が悪い。【金融業】
規制。【生ジュース】
客単価が下がり、外食の低迷。【和食店】
客単価が下がり、来客周期も長くなった。【美容室技術一般】
給与、諸経費の上昇が大きい。【療養通所介護、訪問介護】
金型産業が特に厳しい。これは新製品の開発が進んでいないことによるものと思われる。消費税が払えない。【税務会計】
景気の悪化。人件費の上昇。
景気感については、年末年始における好況感はあるものの、好景気とはいかず、一般消費者間においては、かなり慎重な購買状況での消費である。【不動産仲介および賃貸住宅管理業】
景気低迷【組合事務所】
景況感としては、オリンピックまでは何とかもつかという雰囲気を感じますので、その後を大変心配しております。【産業機械の設計製図】
雇用が非常に難しい。【税理士事務所】
雇用状況が悪く、募集しても応募がない。【賃貸アパート管理】
顧客である経営者の老齢化（後継者不足を含む）【税理士業】
高齢化
今期も従業員不足。【ポンプ、送風機のメンテナンスおよび販売】
最近の消費者状況【一般食堂】
最低賃金の上りが厳しい。【ビルメンテナンス業】
最低賃金の上昇。【旅客自動車運送業】
最低賃金の上昇に見合った値上げができない。米中の貿易戦争の影響と思われる輸出入の減少による景気低迷。【梱包業】
作業品目の不足。【検査、梱包作業】
仕事の話がこない。【建築設計】
仕事はあるが従業員不足で手が回らない。【産業機械修理】
仕入原価の上昇（高止まり感がある）。販売先の減少。個人消費の低迷等。【土地建物売買、建売住宅の販売、仲介、賃貸業、駐車場管理、収益建物の管理等】
仕入単価の上昇。【フランス料理】
事業所の大小によって収益の差が大きいため、同じことをしていても人数の確保が難しい。【介護事業所】
社員の高齢化。有休消化に対する人材不足。【自動車修理販売】
社会保障費の増加等が早すぎる。【ビル管理、清掃業】
社用（接待）の減少。【レストラン】
若、壮年層作業者の不足。【設備機械等の重量物の運搬、据付け】
若者の業界参入がない。【理容業】
取引先の経営状況の悪化。【会計事務所】
取引先の高齢化による廃業での減少。不況感や売上減少による設備投資の減少等。【業務用クリーニング機械販売修理】
受注数の減少【医学会イベント企画】
受注先の予算が不足のため厳しい。【金属の鋳造における凝固状態をシミュレーションするコンピュータソフトウェアの開発、販売】
収益率の低い受注は、極力受注しないようにしている。【電気保安管理業務】
従業員が一時的に不足しているが、採用できず。派遣社員を受け入れて対応している。【ソフトウェア開発】
従業員数が好転しました。

従業員不足。応募が少なく獲得が困難である。【温浴事業】
従業員不足。人件費高騰。【税理士業】
消費者の減少。【仲介業】
消費者の将来への不安と施錠の閉そく感がより顕著になった。【土地建物の売買、仲介、資産活用コンサルティング業、貸家仲介、賃貸管理業】
消費税 10%に対して懸念していましたが混乱もなく、それにより消費者の財布の紐も固くならず移行したように思います。【バレエ教室】
消費税 10%の影響は感じないが、仕入単価の上昇がありすぎる。【韓国料理、焼肉】
消費税 10%は少なからず影響していると思う。【自動車部品】
消費税アップのための資金確保【料理教室】
消費税が 10%になり、店での飲食客が減少。仕入も値上がっている。【軽食、ドリンク、ケーキ類】
消費税が高くなり、原価率が上がったことが痛いです。【料理講師】
消費税の増税、取引先の業績の悪化、入札等、受注機会の減少。デフレの進行等、何か一つも好感触の要素なし。非常に厳しい現実が押し迫っていると感じている。【建築設計監理業】
消費税改正による効率悪化。【税理士】
消費税増税および軽減税率の影響による消費の落ち込みより売上の減少。【清掃用具のレンタルおよび清掃業務、家事代行サービス】
消費税増税によると思われる低迷。【カレー】
消費税増税による景気悪化。【税理士業務】
消費税増税による景気悪化。人手不足。【訪問介護】
消費税増税による個人消費の低迷、特に不動産については、相模原の市場性から生活優先のため、買い控えている。【不動産売買、仲介、管理】
消費税増税に伴う売上の鈍化傾向。【墓石クリーニング・メンテナンス・コーティング、石材特殊清掃】
消費税増税の影響。【医療】
消費税増税以降、景気はさらに下降気味。【飲食】
消費税増税後、売上高が減少。【和食、そば】
消費税増税後の売上、客数減少。従業員不足。最低賃金上昇に伴う人件費高と生産性の低下。【服飾リフォーム】
消費税導入後、不動産取引が減少。【司法書士】
消費税率のアップにより収益率が若干悪化してきた。【財務会計諸表の作成業】
人件費の高騰。最低賃金が高すぎる。高齢者などでもっと働きたい人がいるはず。これ以上あがると小企業のみでなく影響がある。【ラーメン店】
人件費の高騰。最低賃金の高騰【ビルメンテナンス】
人件費の上昇に伴った販売価格になかなかできない。社員の育成効率化。【建築物清掃】
人口減少。【税理士事務所】
人材不足【フォークリフト販売、整備】
人手不足。【一般貨物】
人手不足。【交通誘導警備】
人手不足。職員の高齢化に伴い、不注意から労災が増加。最低賃金の増加により人件費の増加。【福祉施設の運営】
人手不足【測量】
人手不足から関係会社へのフォローができない。【関係会社のシステム構築、メンテナンス、MD 作成、監視システム外販】
人手不足が極端。【訪問介護】
人手不足が決定的。【海外引越業】
人手不足でよい仕事があっても取れない。【一般貨物運送事業】
人手不足による雇用コストの上昇。【動物病院】
人手不足による店舗の運営、管理能力が低下。業績に影響。【生鮮食品、酒類】
製造業の業績悪化、新卒採用難【人材派遣、請負、有料職業紹介】
全体的な不況感【コンサルタント】
他業種からの乗れが多い。銀行、ディーラー、スーパーなども取扱い、代理店の大型化。【損害保険、生命保

険代理店】
台風の影響が残っており、出荷できない取引先があります。そのため、輸送量が減っています。【部品、生活雑貨】
大企業に手厚く、下請けは苦しい。【サイングラフィック、WEB デザイン、システムコンサルティング】
大型店の撤退に伴う売上減少。【貸しビル】
中国輸入規制による影響。米中関税合戦による影響より国内市況の悪化。【廃棄物処理、古紙卸売】
低料金業者の増加。消費者のおしゃれ感の低下。【理容業】
天候不順による影響。【ラーメン】
当事務所はクライアントも増加し好調ではあるが、クライアント企業には不景気の影が忍び寄っているような気がします。【税理士業】
働き方改革などの労使間の認識の差。【接骨院】
働き方改革により中途半端に人材が不足すること。【物中コンサル、利用運送、受発注業務】
得意先で来期に機械が売れていないとの情報があり、心配でトラックの買い替えができない。【機械部品の輸送】
入札時の受注単価の不安定さが不況の主たる要因。圏外本社も市内にダミー形態の事務所を有す企業が極端な単価値下げを誘発している。【ビル清掃、設備管理業】
派遣人材の確保（人員不足）【人材派遣】
売上は上がっているが、景気は必ずしも良くない。【油圧機器の修理】
不況が続く。【金属リサイクル業、産業廃棄物収集運搬業】
不況感が抜けきれない。来客数が増えない。【店舗、アパートの賃貸】
不動産の流通が止まってしまっている。買取再販、建売が売れず、おのずと仲介も仕事が減少。【不動産仲介】
米中経済紛争で特に自動車市場の悪化。台風の影響で BCP が必須で新たな負担。
慢性的な従業員不足。【広告代理業】
目には目立たないが、若干景気が下降傾向にあると思います。【しろあり害虫駆除、その他有害害虫駆除】
輸送量が大きく減少している中で売り上げも落ちているが、人件費は上昇している。【鋼材、LP ガス、自動車部品】
予想通りの感じでした。現状維持です。【司法書士】
来期の受注物件の減少。工事費（人件費大、材料費大）が高止まりし、物件が動かない。【建築の構造設計】
来客のサイクルが長くなった。【頭髪の調髪（カットおよび顔そり等）】
来店客の減少が目立つ。収益が減少。【居酒屋】
来年施行される改正労働者派遣法で社員退職金（給与の 6%相当）の負担が義務付けられるが、このコストを客先が負担してくれるかが不透明であり、その動向が来年度の経営に大きく影響する。【機械設計（請負、派遣）、CAD 教育、各種コンサルティング】
良いところと悪いところが二極化している。自分の経営をしっかりと予測することが大切。【社労士業】
令和に入る前から受注激減になり、開業以来の最低売上高で今期終了予定。依頼される客先からも開発案件が減少。社内消化で事足りる状況なので下までは仕事が回ってこない。利益薄でも生活費や税金等は変わらずで貧困です。【試作、開発支援、製造コーディネート】
労働者不足。【コーティング、カーフィルム、板金塗装】
労働集約的企業として最低賃金の上昇は収益を圧迫する。【建物清掃、建物設備保守管理】